

米兵による集団暴行事件に抗議するとともに、 沖縄米軍基地の即時撤去を求める

2012年10月16日、沖縄県警は20代女性に対して集団強姦してけがを負わせたとして米海軍兵2名を逮捕した。報道によれば、酒を飲んだ2人は共謀し、同日未明に沖縄本島中部の屋外で帰宅途中の成人女性を強姦し首にけがを負わせた疑いがもたれている。かかる行為は、真実であれば女性の尊厳を踏みにじる許しがたい蛮行といわねばならない。

沖縄が本土復帰した1972年から2011年までに、米軍人・軍属による刑法犯罪が5747件も発生している。そのうち殺人、強姦、強盗などの凶悪犯罪は568件に上る。これらは沖縄県警が把握できた件数に過ぎず実際にはその何倍もの米兵による犯罪が発生していると考えられる。1995年には米海兵隊員ら3人が小学生の少女を集団で暴行するという許しがたい事件も起きた。

沖縄には2万人を超える米兵が駐屯し、日々軍事訓練を受けている。基地内で極限の暴力である殺人の訓練を日常的に受けている彼らが、基地の外で直ちにその暴力性を封印することは必ずしも容易でない。訓練時の高揚と暴力性を帯びたまま基地の外に出た彼らの暴力の対象となるのは、何の罪もない沖縄県民であり、特に力の弱い女性や子どもたちである。しかも、米兵および軍属の犯罪が日米地位協定などにより公平に裁かれないことに対し、沖縄県民はやり場のない怒りを覚えている。米兵による重大犯罪が発生する都度、日本政府は再発防止を申し入れ、米軍は綱紀粛正を誓っているが、これが抜本的な解決ではないことは明らかである。米軍基地が沖縄にある限り、今後も米兵による犯罪は後を絶たず、沖縄県民にとって平和で安心して暮らせる日々は訪れない。

森本敏防衛大臣は、事件直後、本件が「たまたま」起きた「事故」であることを強調し、「米兵でも真面目に仕事をしている人も多い」「たまたま外から出張してきた米兵が起こす」などと米軍・米兵を擁護するような発言を行なった。このような基地存置を迫認する対米従属的な考え方こそが、米兵による事件が繰り返される根本的な要因となっていることを日本政府は認識すべきである。

私たちは、もはやこれ以上、沖縄県民の人権が侵害されることを看過できない。米兵の蛮行に対して強い怒りをもって抗議するとともに、あらためて、米国政府に対して沖縄米軍基地の即時撤去を求め、日本政府も沖縄米軍基地即時撤去を米国政府に迫るよう強く求める。

2012年10月31日

青年法律家協会弁護士学者合同部会
議長 原 和 良